第78回 カンヌ国際映画祭 グランプリ受賞





いつも、愛が まるつぶこわれた親子――

n





SENTIMENTAL VALUE



NOROSHI

40th GAGA



『わたしは最悪。』ョアキム・トリアー監督最新作あまりに不器用な父娘、ふたりの結末に世界が共感&絶賛! そして、本年度アカデミー賞®へ――!!

2025年、第78回カンヌ国際映画祭で本映画祭最長19分間に及ぶ圧巻のスタンディングオベーションで会場を沸かせ、最大の熱狂を巻き起こし、堂々のグランプリ受賞。本年度アカデミー賞®フロントランナーとの呼び声も高い話題作がついに公開される。本作を手がけたのは、第94回アカデミー賞®で脚本賞・国際長編映画賞の2部門にノミネートされ、日本でも大ヒットを記録した『わたしは最悪。』のヨアキム・トリアー。同作で恋愛と人生の選択をリアルに、共感たっぷりに描いた監督が次なるテーマに選んだのは――愛憎入り混じる「親子」という名のしがらみ。主演には再びレナーテ・レインスヴェを迎え、映画監督の父親役には名優ステラ

主演には冉びレナーテ・レインスヴェを迎え、映画監督の父親役には名優ステァン・スカルスガルド、さらに本作の演技で脚光を浴びるインガ・イブスドッテル・リッレオースに加え、ハリウッドからエル・ファニングも参加。複雑かつ緊張感に満ちた人間模様を浮かび上がらせる。

あまりに不器用でこじれた父娘に共感し、たどり着く結末に世界が唸った家族 ドラマの到達点。きっとあなたの"代えがたい"1本になる。 オスロで俳優として活躍するノーラと、家庭を選び息子と夫と穏やかに暮らす妹アグネス。そこへ幼い頃に家族を捨てて以来、長らく音信不通だった映画監督の父・グスタヴが現れる。自身15年ぶりの復帰作となる新作映画の主演をノーラに依頼するためだった。怒りと失望をいまだ抱えるノーラは、その申し出をきっぱりと拒絶する。ほどなくして、代役にはアメリカの人気若手スター、レイチェルが抜擢。さらに撮影場所がかつて家族で暮らしていた思い出の実家であることを知り、ノーラの心に再び抑えきれない感情が芽生えていく――。

監督:ヨアキム・トリアー『わたしは最悪。』 脚本:ヨアキム・トリアー、エスキル・フォクト 出演:レナーテ・レインスヴェ、ステラン・スカルスガルド、インガ・イブスドッテル・リッレオース、エル・ファニング 配給: NôBô\$|| GAGA★ 本類:SENTIMENTAL VALUE/2025年/ノルウェー/カラー/ビスタ/5.1ch/133分/字裏類訳:吉川拳奈子/(⑤)

gaga.ne.jp/sentvalue_NOROSHI X onoroshi_gaga

© 2025 MER FILM / EYE EYE PICTURES / LUMEN / MK PRODUCTIONS / ZENTROPA ENTERTAINMENTSS APS / ZENTROPA SWEDEN AB / KOMPLIZEN FILM / REVIEW BOOD AND TONE / CORNOR TONE









2.20 Fri ROADSHOW